

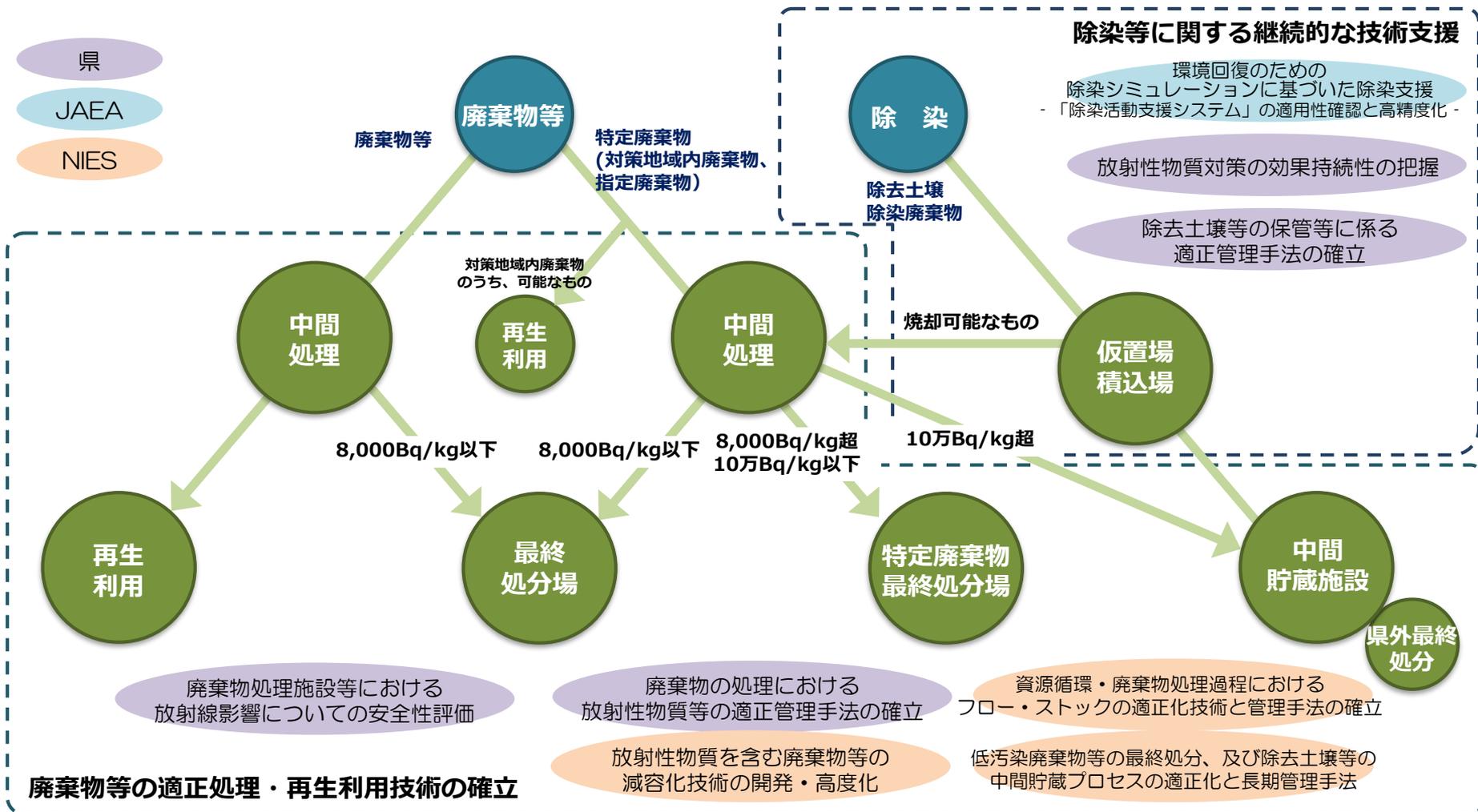


除染・廃棄物部門の取組について

除染・廃棄物部門長 井上 正



除染・廃棄物部門におけるフェーズ2研究課題



- ・モニタリング事業
- ・教育・研修・交流事業
- ・情報収集・発信事業

【他事業との連携】

- ・放射線計測部門
- ・除染・廃棄物部門
- ・環境創造部門

【他部門との連携】

- ・大学等研究機関 (福島大、京都大、東京大、東北大、名古屋大等)
- ・国、市町村 (環境省等)
- ・県 (本庁関係課室、試験研究機関 (ハイテクプラザ等) 等)
- ・国際機関 (IAEA)

【関係機関との連携】

除染・廃棄物部門におけるフェーズ1取組と成果

主な取組と成果

◎ 除染・移動抑制技術の効果の検証

- ・ 用水路での懸濁態放射性セシウム捕集材の有効性を評価
- ・ 洪水後も河川敷の除染効果に持続性があることを確認 **IAEA**

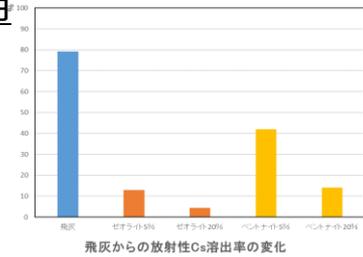
◎ 除染に関する情報の収集及び効果の検証

- ・ 市町村除染実施区域で行われた除染の対象や方法の変遷を把握
- ・ 除染効果評価システム（RESET）の機能向上と除染事業への活用

◎ 除去土壌や汚染廃棄物の減容化技術・適正管理技術の検証

- ・ 仮置場等の保管用資材の耐久性試験等による安全性の確認 **IAEA**
- ・ 仮置場や現場保管での管理の安全性を評価 **IAEA**
- ・ 焼却飛灰からの放射性セシウム難溶化技術を検証 **IAEA**
- ・ 捕獲イノシシの円滑な処理に向けた技術的な知見を確立
- ・ 除染廃棄物等の焼却処理残渣に対する灰溶融技術を開発

※下線については、口頭発表及びポスター発表で詳しく紹介



福島県とIAEAとの協力プロジェクト

- 県土の環境回復、環境創造のためには、世界の英知を結集した取組が必要。
 - 2012年12月、県とIAEAとの間の協力に関する覚書に署名。プロジェクトを開始。
- 詳しくは、福島県HPを参照。
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/298/iaeasummary2017.html>



今後の課題

- ◎ 住民の安心に資する除染効果等の知見整理、除染効果評価システムの高精度化による動態研究への活用
- ◎ 廃棄物埋立処分後の放射性セシウム挙動把握、除去土壌等の中間貯蔵時の安全性評価に関する積極的取組
- ◎ 得られた成果の住民へのわかりやすい開示、対話等による情報共有の推進

フェーズ1からフェーズ2に向けた取組

フェーズ2方針

環境回復を着実に推進しつつ、

資源循環・環境再生 の推進に向けた取組の強化へ

フェーズ1の取組

除染の技術開発・評価

- ・河川等を対象とした効果的な除染技術
- ・河川敷等における除染効果の持続性 等

除染効果の評価

- ・除染による空間線量率の将来予測
- ・除染による効果の検証 等

除去土壌等の管理等技術

- ・仮置場安全性評価、資材耐久性評価
- ・除去土壌等の処理・再生利用技術開発 等

廃棄物等の適正処理技術

- ・廃棄物処理過程での放射性物質の適正管理技術開発
- ・焼却・埋立処分時の挙動解明 等

取り巻く社会情勢

帰還困難区域以外の面的除染の終了

- ・特定復興再生拠点区域の整備に伴う除染
- ・除染後の住民不安への対応、正確な情報発信

除去土壌等の輸送本格化

- ・除去土壌等の輸送、保管に伴う安全性確保
- ・仮置場原状回復措置の適正化
- ・中間貯蔵の管理、最終処分等に向けた検討

廃棄物等の適正管理の継続

- ・最終処分場における廃棄物の適正管理
- ・廃棄物等の再生利用促進

フェーズ2の取組

除染等に関する継続的な技術支援・

- ・除染後の継続調査・評価による市町村支援
- ・除去土壌等の保管等に係る安全性評価
- ・仮置場原状回復措置の実施手法検討 等

廃棄物等の適正処理・再生利用技術の確立

- ・処理過程での放射性物質の管理技術開発
- ・中間貯蔵の管理、最終処分に向けた技術開発
- ・最終処分場における廃棄物の適正管理
- ・廃棄物等の再生利用促進技術開発・評価